

# 東葛市民後見人の会

地域後見 & 社会貢献

第14号 2016年1月

認定NPO法人東葛市民後見人の会  
〒270-1132 我孫子市湖北台6-5-20  
電話:04-7187-5657

支部 我孫子・柏・流山・野田・松戸・鎌ヶ谷 会員数144名  
ホームページ: <http://t-shimin-kouken.org>  
Eメール: [Info@t-shimin-kouken.org](mailto:Info@t-shimin-kouken.org)

## 講演会 超高齢化時代における地域社会の在り方

第6回 講演会を開催しました。ご来賓の星野我孫子市長からも温かい激励のご挨拶をいただきました。

日時 平成27年11月19日(木)13:30~16:15

場所 けやきプラザふれあいホール(我孫子市)

テーマ 「超高齢化時代における地域社会の在り方」

講師 牧野篤先生 (東京大学大学院教育学研究科教



牧野先生の講演は、戦後の高度成長期から21世紀中頃までの約100年間に及ぶ日本の人口動態論から始まりました。綿密な研究データを駆使した説明は説得力があり、人口激減時代に向かって直進する日本の未来に明るい希望と夢をあたえるものでした。以下はその骨子です。

- ① 約半世紀後の2060年、日本の人口は88百万人まで急減する(現在比約40百万人減)。
- ② 40代半ば以下の、就職氷河期に卒業した若者の約4割が派遣労働などの非正規雇用を余儀なくされている。少ない収入では健全な家庭を築くことができず、人口の減少を加速させる。
- ③ 今後とも若者は東京、大阪、名古屋などの大都市集中が続く。大都市の出生率は地方に比べて著しく低く、この面からも人口減少に拍車がかかる。
- ④ 高齢者の年金は、若い世代から給料をもらっているようなもの。給料に見合うだけの社会貢献活動ができれば、老後の生きがい探しにもつながっていくに違いない。
- ⑤ 21世紀中ごろには、現在の職業のかなりの数が消えている。例えば教師、教師の半分は不要になる。インターネットの時代に、既存の知識を伝えるだけの教育の価値は低い。
- ⑥ 地域活性化の原点は、小学校区の教育力を高めることにある。職場帰属型から地域社会に回帰してきた団塊の世代の高齢者にとって、地域支援活動に参加できる分野がたくさんある。
- ⑦ 経済も人口も右肩上がりという時代は終わった。これからは、経済は横ばい、人口は減少時代に適合できるような社会構造に変えていく必要がある。世界がうらやむような理想的な日本型モデルを創造してきた日本人に、新しい時代に見合う社会を創造できないはずがない。その起爆剤となるのが地域社会である。人口減少時代に突入する日本の将来を悲観する必要はない。こうした取り組みが、日本の地方のあちこちですでに始まっている。

約2時間の白熱教室が終わると同時に質問が相次ぎました。アンケートにも多くの真剣な感想・意見が寄せられました。牧野先生の大胆かつ真摯な発信が多くの参加者の知的好奇心を刺激し、感動を与えたに違いありません。問題はその後です。日本社会が成熟し定常状態に達した今、右肩あがりの時代に創られた社会構造を、人口減少時代に適合する仕組みにどう転換するか。この創造と破壊をともなう難問を解く鍵こそ教育です、と先生は強調されました。「終身之計 莫如樹人」と昔から言いますが、国も自治体も地域社会もそれぞれの創意と工夫、そして力量を問われています(理事長)。

## 〈後見活動報告から〉

### 事例 1 私たちを笑顔で迎えてくれます 菊地 多鶴恵 (野田支部)

親族から関わりを拒否された知的障がいのある40代半ばの男性の支援をしています。緊張して施設を訪問したあの日からもう4年が過ぎました。これまで風邪や転倒による怪我もありましたが、大事に至ることもなく、今は穏やかに過ごしています。毎月2回二人以上で訪問し、気になることやこちらの考えを施設側に伝え、本人の最善の利益を心掛けています。天気の良い日は一緒に散歩し、大好きなコーヒーを飲み、本人の楽しそうな鼻歌に聞き入ります。言葉での交流こそ難しいですが、こちらの話し掛けはかなり分かってくれます。

昨年、施設と家族会の研修会に参加し、市民後見の話をする機会がありました。私たちの活動のことを理解していただき本当に嬉しく思いました。

後見人に就任直後、親族による財産の横領事件が発覚したときは本当に驚きました。なんとか取り戻してあげたい、この一念のもとに当会のみななさんが結集し、示してくれた心意気と行動力は実に心強いものでした。この経験を通して、私は当会がめざそうとする意味を体験的に知ることができたと思います。

### 事例 2 全盲の高齢者に寄り添っています 野口 徳子 (野田支部)

小春日和に恵まれた昨年12月の中頃、私たちは車椅子のHさんと施設を出て、街中を散歩していました。新興住宅街はひっそりとしています。車いすを押しながら、庭に咲いている花やまだ残っている紅葉を一つ一つ説明しながら、ゆっくりと進んでいきました。Hさんは10歳くらいで全盲になり、その後は聾学校で過ごされた方です。途中、犬の散歩をしている人から声をかけられました。”お母さんと一緒に散歩でいいですね”Hさんは静かにほほ笑んでいました。同行の担当者が、”わたしたちは「市民後見人」です、近くの施設でお世話になっている方と一緒に、お天気がいいので散歩の途中なんです”と話してくれました。

Hさんを担当してからもう2年近くになります。やむなく自宅から施設に入所されましたが、昼夜逆転や徘徊、体調をくづしたりと心配な時期もありました。そのたびに施設の親身な看護を受け、医師やケアマネや親族と協力し、Hさんに最良な治療と食事、生活が出来るよう配慮してきました。一緒に時間に昔話をしたり、好きな食べ物の話などしっかりと受け答えしてくれます。帰りには”また来てね””ありがとう”のうれしい声に見送られる私たちです。

## 〈「新しいふれあい社会」こころの電話相談室に大きな反響が寄せられています〉

27年4月に「こころの電話相談室」を開設しました(担当は榎場雅子さん、毎週木曜日9時～21時)。育児不安、ひきこもり、それに起因する家庭の混乱と悲劇、自殺未遂、親と子の葛藤、思春期の悩み、家庭の不協和音等々多岐にわたりますが、予想を超える反響の大きさに驚くばかりです。地域に潜在する、公的機関では対応できない家庭の悩みをどう受け止め、解決の道筋をつけるか、相談員も一緒に悩みます。9か月間の相談件数92件、80歳を超えても挑戦する榎場さんに心からエールを送ります(我孫子支部)。

## 〈親族と当会が共同後見人になりました一障害者を支える新しい仕組みです〉

27年12月に障害者の親族との複数後見2件を受任しました。親や兄弟亡きあとの障害者を支える理想的な仕組みであり、親族後見の継承問題も解消できます。家族の強い支持と法人後見の強みが相俟って実現したのですが、結果ばかりでなく、受任に至るまでのプロセスがまさに教材の宝庫です(流山支部)。

## 〈地域後見推進事業も着実に成果をあげています〉

- ①野田市社会福祉協議会の業務委託を受けて、市民後見人養成講座を実施中です。現在、選抜された13名の受講者が約50時間の講義に鋭意取り組んでいます。講座終了後、28年度スキルアップ研修(OJT教育)プランを企画しており、野田市社協関係者とも協議を進めています(野田支部)。
- ②高齢者施設「グループホームさざんか」の職員合同研修会に参加し、成年後見制度に関する勉強会を11月19日に開催しました。参加者50名。高齢者施設との連携に向けた確かな一歩です(松戸支部)。
- ③野田特別支援学校関係者向け研修会を12月7日に開催しました。未成年後見や「親亡きあと」の障害者を支える仕組みとしての成年後見制度の利用促進に直結する実り多い活動ができました(野田支部)。
- ④柏市内のT精神科病院に長期入院中の高齢者の退院促進と特養入所に協力・支援しました。社会的入院の地域移行という懸案解決に貢献することは、本人の人権擁護にもつながる有意義な活動です(柏支部)。

## 〈ご寄付のお知らせ〉

賛助会員・上野広喜さん20万円、榎場雅子さん1万円、藤本裕一郎さん10万円、星野征朗さん10万円、12月に4件の寄付がありました。ご支援ありがとうございます。

## 〈トピックス〉

- ①会員ハンドブックを28年1月に発行します(総務部)。
- ②28年度松戸市助成金30万円決定しました(松戸支部)。柏市社協助成金40万円申込みました(柏支部)。
- ③主な行事予定  
第11回市民後見人養成講座(松戸講座) 28年1月  
第12回市民後見人養成講座(我孫子講座) 28年1月  
WAM助成事業公開講座(流山講座) 2月7日(日)  
障害者の権利擁護公開講座 2月17日(水)  
詳細は行事予定表、HPをご覧ください。

## 〈研修委員会〉〈後見事務担当者チーム〉

- ①レベルアップ研修 毎回約40名が参加します。
  - ②スキルアップ研修 毎回20名以上参加します。
- ### 〈編集後記〉

◆1年9か月ぶりに会報を再開します。◆最近、各支部の活動が見違えるほど活発になりました。短い後見活動報告からは、担当者の心の優しさ、温かさが伝わってきます。新しいふれあい社会を通じた読者と筆者の心の交流に誰もが胸を打たれるはず。改めて、当会がすばらしい人材に恵まれていることを実感します。◆市民後見人の活動に対する期待が一段と高まってきています。私たちは今、大きく飛躍する1年を迎えているのです(広報室)。